

相談室だより (米の山) 2013年10月

米の山病院 坂口真子

今年4月に相談室だよりを初めて書かせて頂いて、はや半年・・・毎日いろんな患者さんとお話することができています。9月28日には、みさき病院で行われた国民運動委員会の事例交流集会に講師として参加させて頂きました。そこでは「自己責任」ということについて、実際に私が関わったケースを紹介しながらお話をさせて頂きました。日々の活動を振り返ってみた時に、患者さんから言っていただく感謝の言葉を、職員みなさんに伝えていく、返していくことも私たちワーカーの仕事だと思いました。

ですので、今回は、事例交流集会でお話させて頂いた無料低額診療事業（※以下、「無低」と省略）を継続されている方と最近入院され無低になった方についてお話ししたいと思います。患者さんの声を聞いてください・・・



「この病院でなければ、きっと今ごろ生きていないだろう・・・」

63歳女性、独居の方です。2011年、大腸癌の確定診断となり、入院治療しようとしたところ、経済困窮を訴えられ、ワーカー介入となりました。2012年1月より無低に該当され、現在も治療継続されています。外来化学療法をされていた時は、度重なる体調不良にみまわれながらも、鮮魚店でのパートを続けていらっしゃいました。この方の口ぐせである「働かんなら生きていかれんもん」の言葉通り、もちろん今もパート就労を続けていらっしゃいます。今年6月には転移性肝癌の手術目的で入院されました。入院のためパート欠勤され、7月給与はなんと7,771円。年金と合わせても47,000円/月の収入です。どうやって乗り切ったんですかとお尋ねしたところ、パート先の余り物の総菜や傷んだ野菜をもらって食費を削ったと、とても言いにくそうにおっしゃっていました。この方は、病気になったことや経済的に苦しい状況にあることを自分のせいだ【自己責任】と思ってらっしゃいます。この方が正社員であれば病欠したとしても傷病手当などの収入を得ることができたでしょう。しかし、2013.7総務省発表によると女性の非正規雇用率は57.5%。この方が非正規として働いていることはなにも特別な事ではありません。経済的に苦しい状況にあるということが本当に【自己責任】ということになるのか考えなければなりません。今回8月に無低の3回目の更新を行い、無料の判定とされました。「きっと今ごろ生きていないだろう」と、一度は治療をあきらめた人を無低で救えていることは、この方にとってはもちろん、米の山病院にとっても大きな力になっていると思います。

「ありがたい・・・入院してよかった・・・」

52歳女性、夫、長男（中2）、長女（中1）の4人暮らしの方です。市役所・児童家庭課の方から「家庭問題で相談を受けている方が、**体重34.5kg**と栄養不良がみられ、保健所の医師に相談したところ、まずは内科的な治療を優先させた方がいいとのことで受診させてもらえないか。



お金のことを気にされていて、受診にも消極的な様子で・・・」と連絡がありました。無低の利用についても相談されたため、無低の対応ができるかの判定は今すぐ分からず、無低での対応ができない可能性があることや、分割での支払いの対応ができることなど説明しました。翌日、児童家庭課の方が本人さん宅へ家庭訪問され、受診したいとのことでしたので、私が自宅まで迎えに行きました。（※公用車では病院受診に連れていくなどの対応ができないそうです！）点滴をしながら、本人さんへの聞き取りが始まりました。なかなか話をされず、ぽつりぽつりと話をされました。ご主人との仲がうまくいっていないこと、近所の人との関係がうまくいっていないこと、そのことでお酒を飲むこともあったこと、今はそのお酒を買うお金もないこと、子どものことや自分の兄弟のこと・・・この夏暑くて、食事が入らず、水分や麺類などばかり食べ、吐いていたこと、などなど、本当にぽつりぽつりと話をされました。塗装業をしているご主人の収入のみで生活されており、世帯収入としてはご主人の給与約 19 万円と児童手当 2 万円の合計約 21 万円。生活保護の基準額 186,570 円と比較すると 115%です。無低の手続きと同時進行で、翌々日入院となりました。入院から 6 日後、「今回の入院に限り無料」の判定が事務局メンバーによって決定されました。



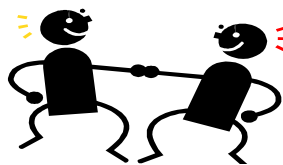
入院後何度となく私が部屋へ会いに行くと、「ただ飯食べよるけん、はよ帰るごと言われよるとやろ」「はよ退院せなんとやろ」と入院のことや、お金のことを気にされていました。とにかく体調を整えることを優先させましょうとお話し、信頼関係もできはじめ、いろんな話をして頂けるようになりました。入院時は生活上の不安が重なり、離婚したいなど否定的なことを言われていましたが、体調が回復していくとともに、表情も明るくなられ、冗談などを言われるようになりました。入院中いろんなことをゆっくり考えられ、退院前には「もう一度やり直したい」と前向きな発言も聞かれるようになりました。無低に関しても「ありがたい、なんてゆうか、入院してよかった・・・」とおっしゃっています。この方は引き続き、外来受診され（自分で支払いされています）、退院後も関わっています。この方の意思を尊重し、できることを協力していきたいと思います。



経済的な理由により受診を思いとどまる方がたくさんいらっしゃいます。無低となれば病院の経営的に厳しい状況になることは簡単に理解できます。しかし、無低の事業がなければ救えなかった人たちがたくさんいらっしゃることは事実です。

また、もし、無低の人たちが無低でなくなったら、と、考えてみたときに、**未収金になることより、治療をあきらめてしまうことの方が怖いことだと思いませんか。**

対応に困る患者さんや苦手だと感じる患者さんに対して、自己責任だ、と、その人のせいにするのは簡単です。そうではなく、どうしてそうなったのか生活背景や家族状況、社会背景まで見ようと、患者さんを知ることがとても大切になると思います。そして、職員同士で情報交換・情報共有し、アンテナをはっていけば、おのずと患者さんへの理解や支援につながっていくと思います！！



・・・次回は みさき病院 福山 MSW です・・・